



重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）	当初示した判定基準	担当
5 学校の魅力を積極的に発信し、保護者や地域から信頼される学校づくりを目指す。	① ボランティア活動後の振り返りを充実させ、自己の成長を実感させることで、ボランティア活動に積極的に参加する意識を一層高める。	「ボランティア活動に参加したいと思う」生徒が全生徒の A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	1 2月学校評価（生徒） 達成度 D 1年 5 5 % 2年 6 0 % 3年 6 4 % 全体 6 0 %	天候不良のため実施できなかった活動もあった。今年度は、部活動に所属していない生徒が有志でボランティアに参加するなど、生徒の志が少し広がったことが一つの成果である。部活動が中心となって実施されるボランティア活動はこれまで通り盛んであり、各部においても好評で多くの部員が楽しみにしている。その多くは演奏会や大会スタッフといった、目の前に相手がいるボランティア活動である。今後、そのような目の前に相手がいる、実際に人と接してふれあいの中で嬉しさを実感することのできる活動に参加できる機会を増やしていきたい。	C、Dの場合、活動計画の周知を徹底するとともに、活動の意義を実感させる取組を再検討する。	生徒課 各学年 各部活動
	② 学校ホームページをより閲覧しやすいうに工夫し、保護者や地域、中学生やその保護者等への情報提供を一層充実させる。緊急連絡についても、ホームページで発信できるようにする。	学校ホームページによって、本校の教育活動についてよく知ることができる这个回答した保護者の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	1 2月学校評価（保護者） ・ホームページにアクセスしたことがある。→6 4 % ・この内、本校の教育活動についてよく知ることができる这个回答 →8 3 % 達成度 B	関係行事や年間・月間行事計画などの情報について絶えず更新を行い、発信を行った。閲覧の易やすさと内容の簡潔な記述に重点を置き、閲覧者の便宜を図ってきた。また、本校を志望する中学生にも学校の内容がわかるよう配慮している。今回の評価では、保護者に関しては、「本校の教育活動が理解できる」は3 3 %と一定の評価はできる。ホームページにアクセスしたことがある保護者の割合が6 4 %であることを考慮すると残り3 6 %の保護者にはホームページの閲覧を促す方法の検討が必要である。本校ホームページはパソコンのみならず、スマートフォンなど携帯電話にも対応していることから、多くの保護者に手軽に利用してもらい、学校からの配付物と合わせ、生徒の動向を理解してもらいたい。今後は、校内の各担当と連携し、情報の即時掲載とコンテンツの充実を図りながら、生徒・保護者ともに活用の機会を増やせるよう努めたい。また県の内外を問わず、本校の良さを発信していきたい。	C、Dの場合、提供する情報の内容等について再検討する。	副校長 総務課 図書・情報課
学校関係者評価委員会の評価	重点目標 1について 1. 大学等の受験を意識し始める時期が遅いのではないか。進路指導において、担任との面談以外の他の仕掛けが何か必要ではないか。普通科高校においてインターンシップを2年生の全員参加としていることは高く評価したい。 重点目標 2について 2. 家庭学習2時間以上という数値目標に拘る必要はないのではないか。面談を通して、将来の進路を明確にさせることで学習時間は自ずから増えていくのではないかと。 重点目標 3について 3. 時間外勤務が縮減された一方で、業務が減ったことを実感している教職員が少ないとのことだが、思い切って止めてしまう業務はないのか、取捨選択を図るべきである。 重点目標 4について 4. 自ら進んで挨拶できる生徒が増えていることを評価したい。遅刻防止には学校と家庭との協力が不可欠であり、保護者への働きかけを強化してはどうか。SNSによるいじめが起きないよう、生徒への指導に留意してほしい。 重点目標 5について 5. 1年間の教育活動を「研究紀要」としてまとめているのは良いことであり、この中こそ伏見高校が今後目指すべき教育のヒントがある。					
上記評価に対する今後の取り組み				1. 個々の生徒が自らの志望進路を早期に明確なものにし、授業・家庭学習に対してより積極的に取り組めるよう、特に低学年次におけるホーム担任との面談指導について強化する。面談内容を充実させるため、的確な面談の進め方に関する教職員研修を実施する。また、保護者向け進路説明会の開催など、進路情報を提供する機会を増やす。 2. 授業改善について、過去2年間実施した異年齢・異教科の構成メンバーによるOJT研修に加えて、次年度は外部講師を招聘しての研修を実施する。 3. 業務改善について、ICTの活用を研究し業務量の縮減と効率化に取り組み、特に校務分掌業務による時間外勤務の縮減を進める。また、主任層のタイムマネジメントに対する意識の高まりを全教職員の意識高揚にも繋げていく。 4. 生徒・教職員・保護者の総てを対象に、いじめ防止に関する学習を継続的に実施し、いじめを絶対に許さない学校づくりに努める。 5. ボランティア活動の他、防犯、自然災害発生時の対応・協力においても地域との連携を継続・強化する。学校ホームページでの本校教育活動の即時掲載や年一回の「研究紀要」発行など、多様な方法で本校の良さを発信する。		